

1. スキー合宿報告

3月9,10,11日の3日間にわたり合唱団のスキー合宿が行われました。参加者は佐藤氏、伊藤氏、本間氏、長崎氏、山路氏、鶴野氏、新木氏、そして野本の8名でした。場所は例年通り佐藤氏のスキー本拠地である青森県は鱒ヶ沢スキー場です。鶴野氏、新木氏、そして野本は初参加ということできわめて新鮮味に満ちた一行となりました。朝早く羽田を出発し、青森空港でホテルから出迎いのバスに乗り、お昼前には現地に着くという非常に効率的な行程です。最近では貸しスキーの性能もよくなっており、スキーウェアも借りる人が多いとのことで時代の移り変わりを感じた次第です。板もかつては身長プラス20cmの長く、重い板を使っていたのが、スマートなカービングスキーとやらの身長より短い最新鋭のモデルを提示され、若干戸惑いを感じたものです。身長より5cmほど長い物を選んだのはOld Skierのせめてものプライドと抵抗でしょうか。しかし、実際に使ってみるとまったく違和感はなく、板の操作もやりやすく誠に満足なセットでした。これからスキーを再開されようとする方には、いかに簡単にスキーが楽しめるようになっているか是非ご理解いただきたい朗報だと思います。

さて、準備万端整え、昼食を済ませた後、佐藤インストラクターの掛け声のもと入念な準備体操を行って滑り始めました。さすがはインストラクターだけあって準備体操も筆者の知らない方法が多く含まれており、今後の大きな参考となるものでした。写真はスタート直前に全員そろって撮ったものです。普段の服と全く異なるので、見分けがつかないかもしれませんが、その点をご容赦ください。



鱒ヶ沢スキー場の特徴は非常によくゲレンデが整備されていて、なおかつどのスロープも長いことです。勿論少しは急な斜面もありますが、幸い、迂回路も良く整備されていて、ゆったりとした気分でマイペースで楽しむことができます。上から下まで長い長い雪の斜面を滑っていると誠に爽快な気分になります。そしてなんとといってもここの特徴は混んでいないことです。実際、前も後ろも我々のグループしか見えない瞬間があり、かつてリフト待ち1時間などという経験をしたSkierには夢のような

ゲレンデです。しかも、無料の佐藤インストラクターつきということで、2日目はじっくりと各人のフォームをアドバイスしてもらうことができました。まったく贅沢な空間と環境です。また、佐藤氏は今年は大大会で2回優勝を飾られたとのことでその戦利品の一部である赤霧島の一升瓶を寄付してもらいました。感謝、感謝です。スキーの後はもちろん全身の筋肉を緩めることができる露天風呂付の温泉、そしてたっぷり飲んで、たっぷり食べての夕食です。まさに至福の時を過ごしたといえましょう。なお、鶴野氏、新木氏のお二人は最終日はスキー場を離れ、現在話題を集めている弘前城の石垣修理を見学に行かれました。建築業界に携わっておられる鶴野氏からの情報ですが、100年ぶりとなる大規模なものらしく、内濠を埋め立てたり、弘前城を曳屋（ひきや；石垣修理のため城を移動させるもの）させるものとのことです。石垣の工事が終わるまでは約10年かかるとのことで、お二人にはスポーツと文化活動の両方を楽しまれたのではないかと思います。

最後になりましたが、昔に比べるとずいぶん手軽にスキーが楽しめるようになってきました。初心者の方からベテランの方まで来年はもっとたくさんの方、そして望むべくはそろそろSnowboarderの方の参加も期待して合宿の報告とさせていただきます。（T2 野本）

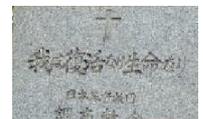
2. 白石キャプテンの墓参

3月12日(土)、合唱団有志でお墓参りをされました。戴いた写真等を掲載します。

明日は寒そうな天候ですので、風邪をひかないような服装でお出かけ下さい。集合場所は、JR高尾駅北口バス乗り場1番に13:30です。お花は現地で調達します。（小永井さん）

今日(3/12)も寒い一日でした。東京霊園での故白石キャプテンの墓参り、ご参加の皆様お疲れ様でした。（原田さん）

皆さま、故・白石キャプテンの一周忌の「お墓参り」（高尾・東京霊園）、お疲れ様でした。寒空の下で歌った「シニョーレ・デッレ・チーメ」と「シックス・ペンス」は、きっと天井待機の白石マエストロに届いたことと思います。（岩尾さん）



（写真撮影は、原田さん、岩尾さん）

【編集後記】 ちょうど一か月前ってしまいました。3月の2大行事を記録として残します。野本さんはアメリカ出張の機内で書かれたそうです。お墓参りについてはメールを引用させていただきました。（B2：山路司）